

## 2022年度「ケニア 短期派遣プログラム報告書」

応用生物科学部・農芸化学科・4年・高橋美百合

今回留学した目的は主に2つあり、1つ目は将来アフリカ地域を含む熱帯地域と連携するための国際的人材力を身につけるためである。2つ目は、卒業研究で熱帯果樹の病害防除を行っているため、生産現場の病害の現状把握に重きを置いて、さらに栽培形態から農産物流通システムや政策について、視察を通じて理解を深めていくことである。

生産現場の病害は、主要輸出作物であるコーヒーに関して留学先のジョモケニヤッタ農工大学の講義及び、コーヒー研究所で学んだ。コーヒーはプランテーションで栽培しており、研究所の農場では、さび病や炭疽病に対する耐性品種の育苗によって防除していた(写真1)。その他、地元の果樹や野菜を栽培している大学やCOSDEPの有機農場では病害は特に見られず、殺虫剤効果のある植物で肥料を作り、防除していた。今回は慣行農業や大規模農業を視察していないため一概には言えないが、多種多様な作物を有機栽培することで土壌バランスが整い、病害を抑制しているのではないかと考えた。肥料は、窒素源となる植物を使用した肥料、日本のぼかし肥料、ミミズ堆肥などを1から作っていた(写真2)。日本では肥料を購入するイメージが強いが、肥料作る設備があり、持続的な有機農業の体制づくりがされていた。また、ナイロビのスーパーでも有機野菜の並ぶ棚があり、有機農業に対する取り組みは進んでいることが分かった。

農産物の流通システムに関しては、JICAの方から地域によって変わると教えて頂いた。都市近郊農家はトラックを持っている仲介人がお金を渡して買い取り、市場へ出荷する。さらに小売が販売するため、農家自身は価格設定できない。一方で、田舎の農家は自ら運んで道路にできたマーケットで販売するため、価格設定できる。いずれにしても小規模農家の低所得は問題であり、JICAでは小規模農家の所得向上を目的としたSHEPアプローチを行い、農家と市場関係者がWin-Winの関係を築ける仕組みづくりをしていることを学んだ。

他に農家の直面する課題として、乾季の水不足が問題であると学んだ。近年では異常気象によって干ばつが起きている地域もあると知り、水不足によって農業生産性が低下すると食料安全保障問題、栄養問題に繋がるため、乾季における食料確保が重要であると分かった。キトゥイ近郊小規模農家の話では、収穫した野菜や果物をSU AIDから提供された乾燥機を使用して乾燥させ、乾季のために保管しており、食品乾燥は食料保存法の1つとして普及できると考えた(写真3)。現在、大学の加工センターでドライフルーツや野菜を製造しており、スーパーでも数多くのドライフルーツが並んでいるが、依然としてドライフルーツの国内消費量は低い。一方で、大学の講義やBioversityの森元さんのお話で、在来野菜の普及活動により、在来野菜の重要性が認識されてから一般的に食べられるようになったと学んだ。このように、食料安全保障による食文化の変化は起こり、ケニアは製造業が成長段階にあるため、今後食品工業を拡大していくことで食料確保のための取り組みが進んでいくと考える。

今回の目標達成度は80%ほどだと思う。講義やフィールド調査を通じて、国際人の第一歩として現地の人にどのように関わるべきなのかを、論理的に考えることができた。以

前、学部1年の夏にタンザニアに短期留学した際は英語を十分に理解することができず、質問もできなかった後悔があったが、学部2、3年にISSを始めとした農大の留学プログラムに取り組み、英語力を身につけたお陰で、今回はおおよその内容を理解し、質問も積極的にできた。しかし、話し方によっては聞き取りづらい英語もあったのでさらにリスニング力を向上させたい。この2週間、ケニアの学生と交流しながら講義やフィールドワークをしたため、その都度ケニアの学生の意見を聞き日本とケニアの違いや特徴を存分に学ぶことができた(写真4)。この留学を原点にさらに日本とケニアとの交流を深め、共通認識の社会、環境課題に取り組むパートナーとして関わっていけるよう、これからも国際的な活動に積極的に参加していきたい。さらに、ジョモケニヤッタ農工大学では高度な実験機械もあり、理系分野でも研究できる体制が十分整っている(写真5)。よって、これからさらに交換留学も活発に行いケニアと日本の架け橋となる人材が増ええていくことを望んでいる。

最後にこのプログラムを引率して下さった子浦さん、Michelさん、竹田先生、そして参加学生のメンバー、送り出してくれた家族や友人に心より感謝申し上げます。



写真1 コーヒー耐性品種の接ぎ木



写真2 COSDEP の小規模有機農場 肥料作り



写真3 キトゥイ近郊農家(畑、家、乾燥機)



写真4 ジョモケニヤッタ農工大学の学生との交流



写真 5 大学の研究設備

- 持って行って良かったもの  
水に流せるティッシュ、折り紙
- 用意したがいらなかったもの  
特になし
- 現地で使用したお小遣いの金額  
現金約 2 万円、カード約 1 万円
- 事前に準備、勉強しておくべきこと  
講義やフィールドワークに関する事前学習  
農業分野の英単語  
ワクチン証明書、VISA 等の発行